

株式会社 堀場製作所

2019年12月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

代表取締役副会長兼グループCOO 齊藤 壽一

2019年8月7日

説明内容

- 2019年12月期 上期 決算概要
- 2019年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

※本プレゼンテーションにおける2015年の実績は、2016年に変更した収益認識基準に遡及適用後の値を記載しております。

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- **2019年12月期 上期 決算概要**
- 2019年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2019年上期の振り返り

外部環境

- ◆ 米中貿易摩擦の過熱と日韓関係の悪化
- ◆ 英国EU離脱の不透明な先行き
- ◆ 半導体設備投資の低迷
- ◆ 自動車の電動化、排ガス規制の世界的な強化

内部状況

- ◆ グローバルでの継続した開発拠点強化
- ◆ 積極的な製品上市
- ◆ なでしこ銘柄・健康経営銘柄に採用

2019年12月期 上期決算概要

半導体セグメントの販売減少により前年同期比で大幅な減収減益

P&L

- ◆半導体セグメントが前年同期比で大幅減収減益
- ◆自動車セグメントは売上高の地域構成変化などにより収益性悪化

B/S

- ◆総資産は、売上債権の回収などにより▲36億円の2,736億円
- ◆負債総額は、仕入債務の減少や借入金返済などにより、▲36億円の1,116億円
- ◆自己資本比率は58.9% (2018年12月末比)

CF

- ◆利益計上や売上債権回収などにより、営業CF: +138億円
 - ◆有形固定資産取得などにより、投資CF: ▲42億円
 - ◆配当金の支払などにより、財務CF: ▲72億円
- } フリーCF
+95億円

2019年12月期 上期実績

(単位:億円)

	2018年上期		2019年上期		
	実績	期首予想※ (2/12)	実績	VS 前年同期	VS 期首予想
売上高	999	960	916	▲ 83	▲43
営業利益	140	105	82	▲ 57	▲22
営業利益率	14.1%	10.9%	9.0%	▲5.1p	▲1.9p
経常利益	137	103	80	▲ 56	▲22
親会社株主に帰属 する四半期純利益	105	70	57	▲ 47	▲12
USD(円)	108.67	110.00	110.06	+1.39	+0.06
ユーロ(円)	131.55	125.00	124.32	▲7.23	▲0.68

※2019年第1四半期での予想の変更は無し

2019年12月期 上期実績(セグメント別)






(単位:億円)

	売上高					営業利益				
	2018年 上期	2019年 上期				2018年 上期	2019年 上期			
★: 過去最高	実績	期首 予想 (2/12)	実績	VS 前年 同期	VS 期首 予想	実績	期首 予想 (2/12)	実績	VS 前年 同期	VS 期首 予想
自動車	327	360	★343	+16	▲16	24	30	15	▲8	▲14
環境	92	100	91	▲0	▲8	8	10	6	▲2	▲3
医用	131	140	126	▲4	▲13	10	10	7	▲2	▲2
半導体	323	230	227	▲96	▲2	102	55	53	▲48	▲1
科学	125	130	★126	+1	▲3	▲5	-	▲0	+4	▲0
合計	999	960	916	▲83	▲43	140	105	82	▲57	▲22

説明内容

- 2019年12月期 上期 決算概要
- **2019年12月期 通期 業績予想**
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2019年市場環境の想定

自動車		アジアを中心とした排ガス規制強化や、電動化・自動運転技術の開発加速により、自動車関連メーカーの投資意欲旺盛
環境		新興国での環境規制強化による需要増 石油産業の投資回復
医用		国内：開業医市場の需要は堅調 海外：新興国を中心に血液検査需要拡大
半導体		半導体メーカーの投資調整局面 中長期視点での半導体需要は増加、投資回復に期待
科学		企業の研究開発投資は旺盛 二次電池などで使用される新素材研究加速

2019年想定為替レート

(単位:円)

	2018年実績		2019年					
	上期	通期	期首予想 (2/12)	実績		下期 予想	今回予想 (8/6)	
				1Q	2Q			上期
USドル	108.67	110.44	110	110.22	109.90	110.06	109.94	110
ユーロ	131.55	130.35	125	125.16	123.48	124.32	125.68	125

2019年予想: 1円円高による営業減益額(通期)

USドル 2.3億円

ユーロ 0.2億円

2019年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

	2018年	2019年			
	実績	期首予想 (2/12)	今回予想 (8/6)	vs 前年	vs 期首予想
★: 過去最高					
売上高	2,105	2,180	★ 2,130	+24	▲50
営業利益	288	290	250	▲38	▲40
営業利益率	13.7%	13.3%	11.7%	▲2.0p	▲1.6p
経常利益	283	285	245	▲38	▲40
親会社株主に帰属 する当期純利益	223	200	175	▲48	▲25
一株利益(円)	529	474	414	▲115	▲60
ROE	14.3%	11.9%	10.5%	▲3.8p	▲1.4p

2019年12月期 通期業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高					営業利益				
	2018年	2019年				2018年	2019年			
	実績	期首 予想 (2/12)	今回予想 (8/6)	VS 前年	VS 期首 予想	実績	期首 予想 (2/12)	今回予想 (8/6)	VS 前年	VS 期首 予想
★: 過去最高										
自動車	796	850	★850	+53	-	77	90	★80	+2	▲10
環境	193	200	★200	+6	-	20	20	20	▲0	-
医用	260	280	★280	+19	-	18	20	20	+1	-
半導体	577	550	500	▲77	▲50	170	150	120	▲50	▲30
科学	277	300	★300	+22	-	2	10	10	+7	-
合計	2,105	2,180	2,130	+24	▲50	288	290	250	▲38	▲40

説明内容

- 2019年12月期 上期 決算概要
- 2019年12月期 通期 業績予想
- **セグメント別詳細説明**
- 株主還元
- その他トピックス

2019年上期実績 / 通期予想

(単位:億円)

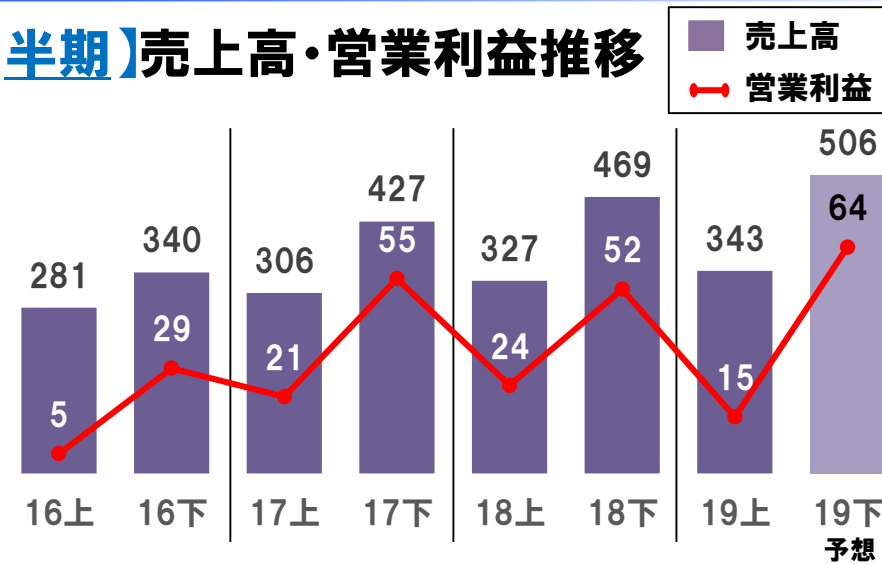
2019年上期実績

- + 排ガス** 中国・インドで新規規制導入に向けて需要増
欧州では新規規制導入後も堅調な需要
- + MCT^{※1}** 日本・欧州での案件増加
- + ECT^{※2}** 次世代自動車開発分野でのビジネス拡大

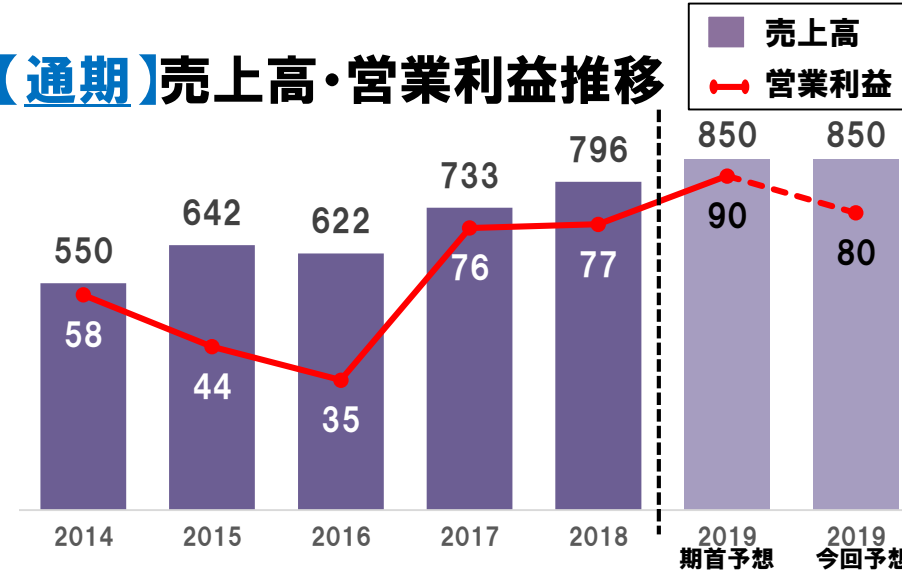
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング)

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



2019年通期予想

- + 排ガス** 中国・インドでの需要増
- + MCT** 燃料電池試験装置の需要増
- + ECT** 積極投資で成長加速。費用は増加傾向

2019年上期実績 / 通期予想

(単位:億円)

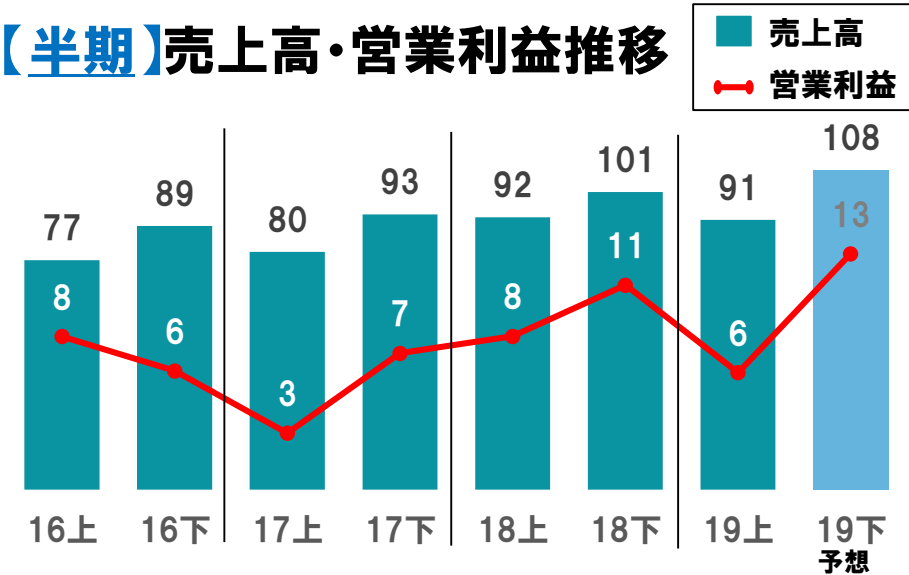
2019年上期実績

- ⊕ 【煙道排ガス】 国内販売は好調に推移
- ⊕ 【大気】 アジアは前年度大型案件の反動減
欧州の大気モニタリング需要拡大
- ⊕ 【水質】 新興国でのビジネス拡大により販売増

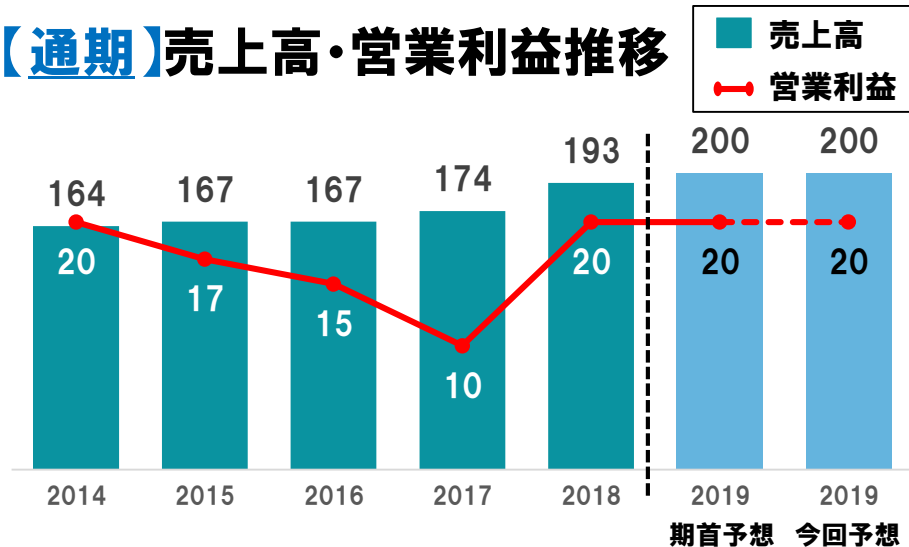
2019年通期予想

- ⊕ 【煙道排ガス】
中国・インドをはじめ新興国でのビジネス拡大に期待
- ⊕ 【プロセス計測設備】 原油価格上昇に伴い堅調
- ⊕ 【水質】 新製品・船舶向け水質モニター堅調

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



2019年上期実績 / 通期予想

(単位:億円)

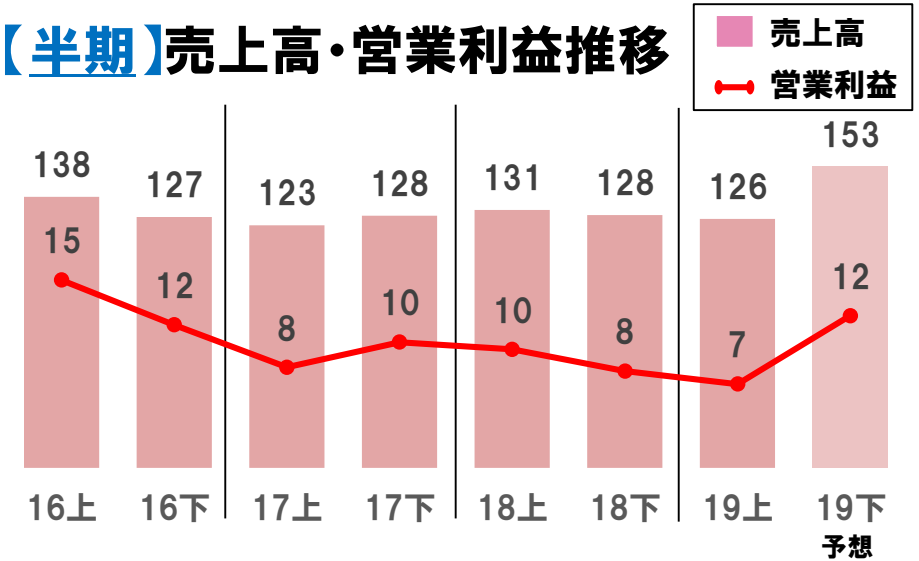
2019年上期実績

- ユーロ安による欧州向け売上円換算額の減少
- + 新興国(中国・インド)でのビジネス拡大
- + 日本における新製品販売強化も競合参入

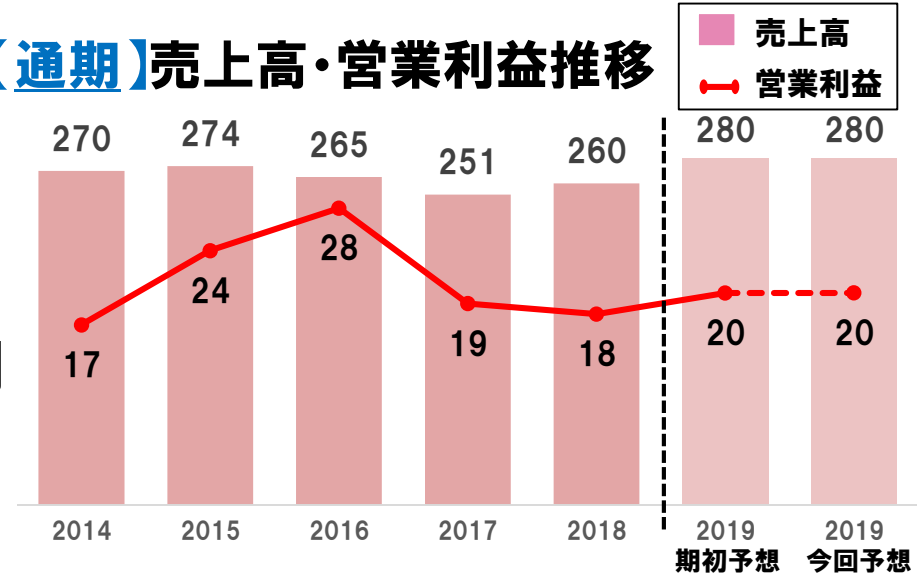
2019年通期予想

- + 新製品販売による微量血液検査システム事業の成長
- + 新興国での需要増によるビジネス拡大。費用は増加傾向

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



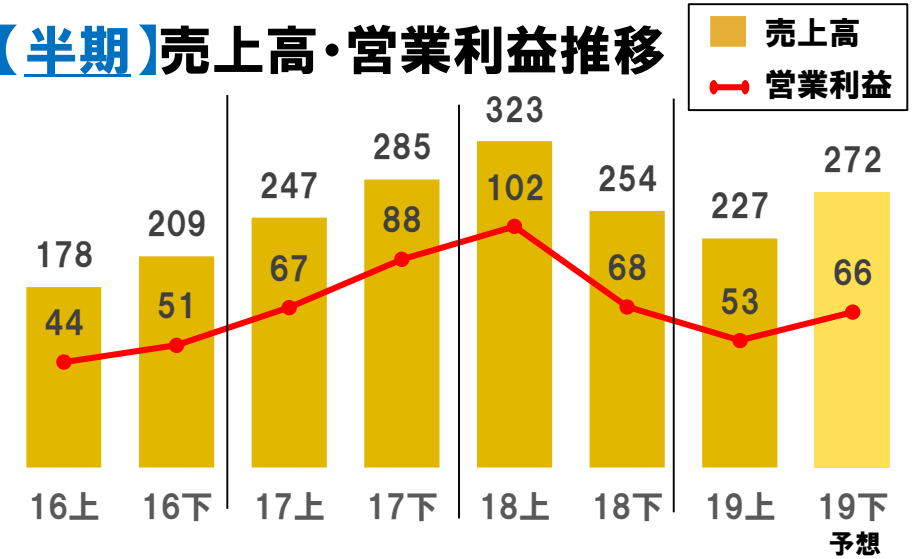
2019年上期実績 / 通期予想

(単位:億円)

2019年上期実績

- 売上高・営業利益ともに昨年の反動減
- 半導体メーカーの投資調整局面が続く

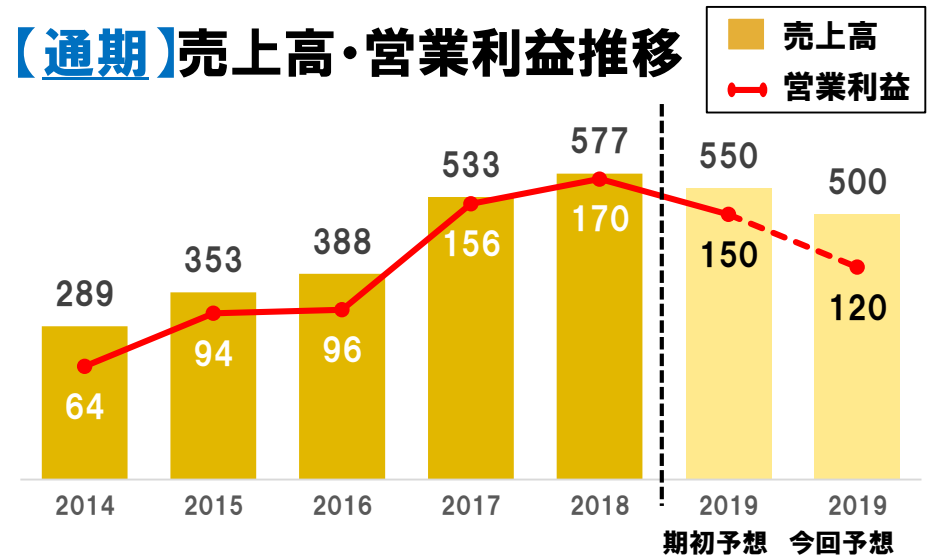
【半期】売上高・営業利益推移



2019年通期予想

- + - 半導体メーカーの投資回復のきざしが見えるものの、当面は現状維持
- + 中長期視点での需要は増加

【通期】売上高・営業利益推移



2019年上期実績 / 通期予想

(単位:億円)

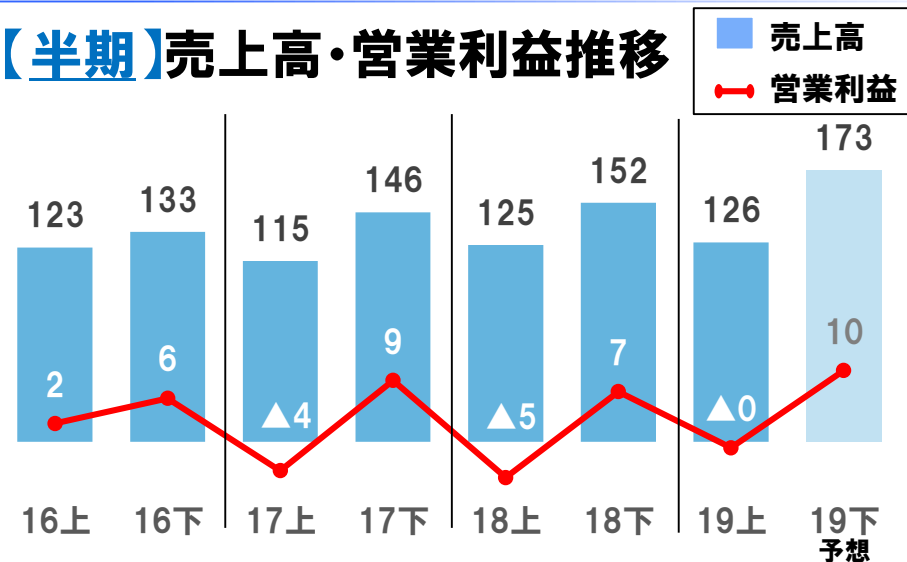
2019年上期実績

- + 企業の活発な研究開発投資を背景に
アジア、米州で販売増
- + 米州における一時費用計上の反動により、
収益性改善

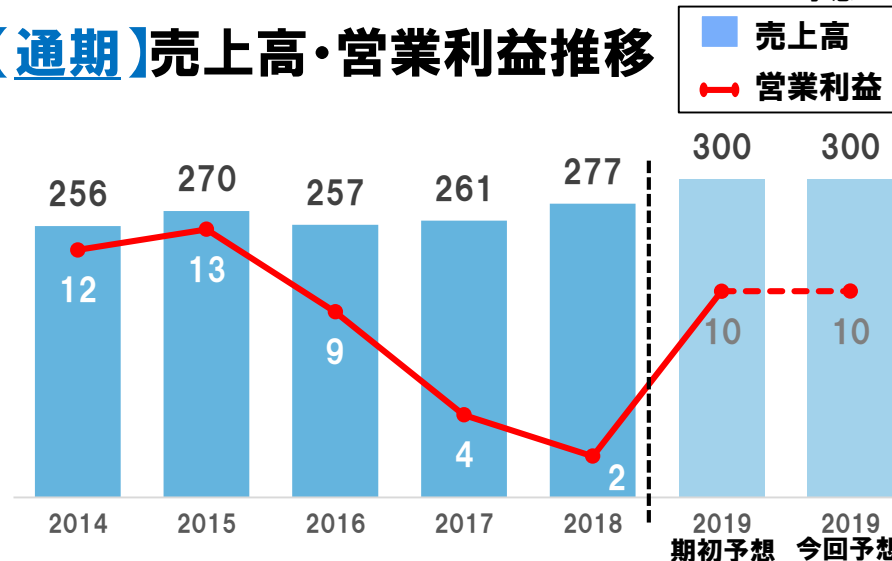
2019年通期予想

- + 製品カスタマイズによるさらなる市場開拓と
収益性の向上
- + 二次電池素材解析ビジネスの拡大に向けた
取り組み強化

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



説明内容

- 2019年12月期 上期 決算概要
- 2019年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- **株主還元**
- その他トピックス

株主還元政策

配当金及び自己株式の取得

2017年実績 116円 [中間 40円、期末 76円]

2018年実績 145円 [中間 50円、期末 95円]

2019年予想 130円 [中間 50円、期末 80円] 【変更なし】

普通配当125円
創立65周年記念配当20円

基本的な考え方

- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

説明内容

- 2019年12月期 上期 決算概要
- 2019年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- **その他トピックス**

自動車運行管理システム(ITS)事業撤退

- 車両運行データを一括管理・運用できるシステムを開発・提供
- 車載装置の汎用化により差別化が困難と判断
- 2024年までに機器販売・サービス提供を終了
- 2019年第2四半期に営業外損益を計上したが、影響は軽微

事業を通じて得たクラウドシステムサービスに関する開発・運用の知見を活かし、新規ビジネスへとつなげていく

Features 特集

持続可能なモビリティ社会に貢献するHORIBAのビジネス

世界の人口増加を背景に、自動車産業は中長期的な成長を期待されています。そのなかでも自動車市場であり続ける内陸市場においては、世界的な燃費・排出削減化を背景にさらに高効率化やクリーン化が求められています。ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車といった電動化技術を開発した HORIBA は、今後、内陸市場は自動車産業の中心を担っていくと見られています。また、ゼロ・エミッションカーとして地球環境への劣化が期待される電気自動車の開発も、近年話題をさらっています。自動車市場は多岐にわたる領域にわたって展開されています。一方で、自動車産業の発展に伴う地球環境への負荷という観点に目を向けると、Well to Wheel(油田からタイヤまでの過程で各国や地域における資源・発電状況なども含めた、全体的なエネルギー効率の向上を考えた)が必要となります。

HORIBAは、エンジン・エンジン駆動系部品で世界シェア30%を有し、排ガスビジネスで高いシェアを占めることで、MCT™ビジネスとあわせて、自動車計測事業を牽引しています。また、MIRA(米国)による自動車開発事業のエンジニアリングビジネスに加え、2014年にFalcon社(英)を買収したことにより、電動化関連のビジネスも大きく拡大しました。さらに、自動車計測以外の事業部門(環境・プロセス、半導体、科学)における技術も活用して、エネルギー関連の市場にも積極的に参入し、多岐にわたる分野でのソリューションを提供しています。

HORIBAは、このように多岐にわたる事業領域を、様々な方向に広がる顧客のニーズに応えることにより、持続可能なモビリティ社会の構築に貢献しています。

2018年12月期の業績は、2017年比で増収増益となりました。売上高は前年同期比で約10%増、営業利益は約15%増となりました。

HORIBAの自動車計測システム機器部門の市場規模は2兆円以上

持続可能な次世代モビリティ社会への変革には、エネルギープロセス全体での効率向上が不可欠

HORIBAは、エネルギーを「作って、運んで、使う」すべてのプロセスに貢献

2018年版の見所

- 電動化・自動運転化などの次世代自動車技術に関するビジネスの成長戦略
- 技術の潮目が変わる時代におけるHORIBAの強み

01 企業文化 社風「おもしろおかし」

「おもしろおかし」は、HORIBAの社風を象徴する言葉です。おもいやり、おもしろ、おかし、という3つの要素が組み合わさった言葉です。おもいやりは、社員同士、社員と顧客との関係性を指し、おもしろは、仕事に面白さを感じ、おかしは、常識にとらわれない発想を指しています。

02 バランス経営 5つの事業にバランスよく投資し、持続的に成長

2018年研究開発費 151億円 (7.2%)

2018年研究開発費の内訳:

- 自動車計測 58億円 (7.4%)
- 環境・プロセス 29億円 (10.6%)
- 半導体 27億円 (10.4%)
- 科学 22億円 (4.0%)
- エネルギー 13億円 (7.1%)

03 開発型企業 分析・計測の電子市場で存在感を発揮

2018年研究開発費の内訳:

- 分析・計測 80億円
- 電子市場 30億円
- エネルギー 13億円
- 半導体 27億円
- 環境・プロセス 29億円

04 グローバル経営 京都で生まれた企業文化をグローバルに

2018年の売上高は、前年同期比で約10%増となりました。売上高の内訳は、日本国内が約60%、海外が約40%です。

05 多様な人財 多様な価値と才能が企業成長を支える

2018年の従業員数は、前年同期比で約10%増となりました。従業員の内訳は、男性が約70%、女性が約30%です。

グループ会社数 (2018年12月31日現在)	海外売上比率 (2018年12月31日現在)	外国人従業員比率 (2018年12月31日現在)	特許取得件数 (2018年12月31日現在)
49社	69%	62%	220件

ぜひご一読ください！
 <PDFダウンロード>

http://www.horiba.com/uploads/media/20190528_HR_jp_01.pdf

JASIS 2019 HORIBAブースで投資家向けツアー開催



2019

入場無料

幕張メッセ国際展示場

9/4(水)-6(金)

AM10:00 - PM5:00

日時: 9月6日(金) 10:20-11:00 / 11:30-12:10

場所: 幕張メッセHORIBAブース内

概要: 主に科学セグメントの製品紹介、直近の市場動向説明

説明: 科学・半導体事業戦略室長(予定)



JASIS2019ホームページ
会場事前登録サイト

申込: 参加希望の方は、メールにてご連絡ください。(定員:10名)

堀場製作所 経営管理部 IRチーム ir-info@horiba.com

ご清聴ありがとうございました。